

柏原市立歴史資料館

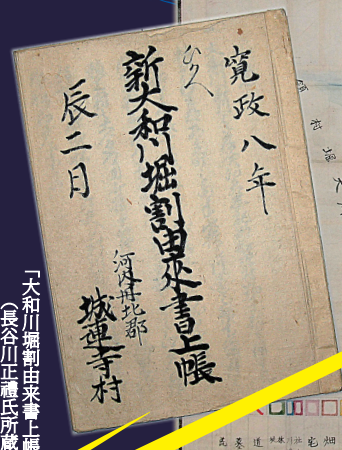
令和3年度
秋季企画展

入館無料

9月14日(火)～12月5日(日)



「若林村絵図」(松原市所蔵)



写真提供 松原市文化情報振興事業団

「大和川堀割由來書上帳」
(長谷川正禮氏所蔵)

つけかえ反対！
—大和川つけかえに反対した人たち—

文化財講演会

9月23日(木) 13時30分～15時30分

小松清生さん(大和川市民ネットワーク)

「大和川学習と市民活動～川を学び、川であそぼう～」

安村俊史(当館館長)

「大和川つけかえに反対した人たち」

10月30日(土) 13時30分～15時

西田敬之さん(松原市民ふるさとびあプラザ)

「反対地域から見た大和川付け替え」

当館3階研修室 定員 70名 参加費200円

①講演会日 ②氏名 ③住所 ④電話番号 を記入のうえ
それぞれ、往復はがきでメールで、10日前までに
1通につき1名の申し込み 応募者多数の場合は抽選
申し込み先：Eメール rekishi@city.kashiwara.lg.jp
往復はがき〒582-0015 柏原市高井田 1598-1 柏原市立歴史資料館

史跡高井田横穴特別公開

10月16日(土) 10時～15時

学芸員によるガイドツアー10時・11時・13時・14時

定員 各回20名

参加費無料 申し込み不要

館長と学ぶ河内の古道講座

9月25日(土) 10月23日(土)

11月27日(土) 12月25日(土)

各回13時30分～15時(13時より受付)

当館3階研修室 定員70名

参加費200円 申し込み不要(先着順)

月曜休館(祝日は開館) 9:30～17:00(入館は16:30まで) 電話 072-976-3430

※新型コロナウイルス感染症の状況により、中止または延期する場合があります。

歴史資料館内では、マスクの着用、手指の消毒、対人距離の確保をお願いします。

大阪府柏原市高井田1598-1 JR高井田駅から徒歩約5分 近鉄河内国分駅から徒歩約15分



資料館HPは
こちらから

つけかえ前の大和川は、大阪平野になんども洪水をおこしていました。そのため大和川の流
れをつけかえてほしいと願う人たちがいました。ところが、新しい川ができるとこまるので、
つけかえないでほしいと願う人たちもいました。つけかえを求める人たちと、反対する人たち。
今回の展示では、つけかえに反対した人たちを中心に、大和川のつけかえについて学びます。

つけかえ前の大和川

つけかえ前の大和川は、久宝寺川（長瀬川）、玉櫛川（玉串川）、平野川などに分かれて流れ、
大阪城の北でもとの淀川（今の大川）に流れこんでいました。しかし、なだらかなところを流
れているため水が流れにくく、大雨が降るとすぐに洪水をおこしてました。

やがて洪水に苦しむ人たちの中から、大和川をつけかえてほしいという願いが出されるよう
になりました。そこで、幕府（国）はつけかえが必要かどうか、なんども考えましたが、いつ
もつけかえは必要ないということになっていました。つけかえにたくさんのお金がいること、
工事をするのがむずかしいことだけでなく、つけかえに反対する人たちがたくさんいたことも
大きな理由と考えられます。新しい川ができるとこまる人たちが、つけかえに反対したのです。
そのため、つけかえが行われることはありませんでした。

つけかえ工事の決定

つけかえを求めている人たちが、つけかえをあきらめてしまえばくらすと、幕府は急につけか
えることを決めました。つけかえると洪水がなくなるだけでなく、幕府にたくさんお金が入っ
てくる方法があるとわかったからです。幕府は各地の大名につけかえ工事を手伝わせました。
そして、幕府が工事で使ったお金は、もとの川に新田をつくるためにはらわれたお金で、ほと
んどもどってきました。そのうえ新しくできた新田からは、年貢（税金）がたくさん入って
くるようになるのです。幕府はつけかえ工事でお金が入ってくる方法を考え出したのです。

つけかえ工事

工事は、宝永元年（1704）2月に
はじまり、10月に新しい大和川が完
成しました。わずか8か月というス
ピード工事でした。新大和川は、川
底をほとんど掘らずにつくられてい
ます。どうしても掘らなければなら
ないところだけ掘り、その土を堤防
に使ってむだのない工事をしていま
す。それも工事が早く進んだ理由の
ひとつです。よく考えて工事が行わ
れていたのです。

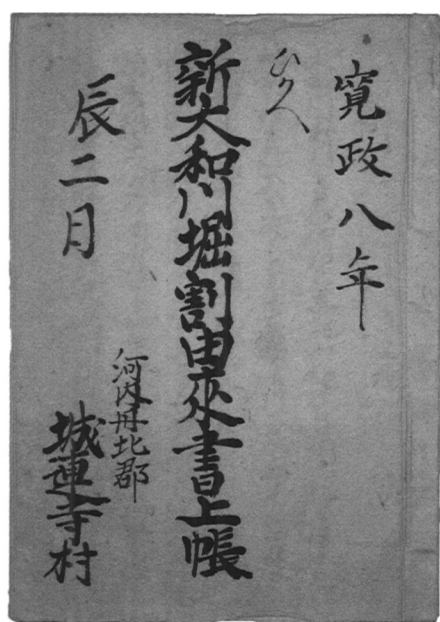


つけかえ前の大和川

つけかえに反対した人たち

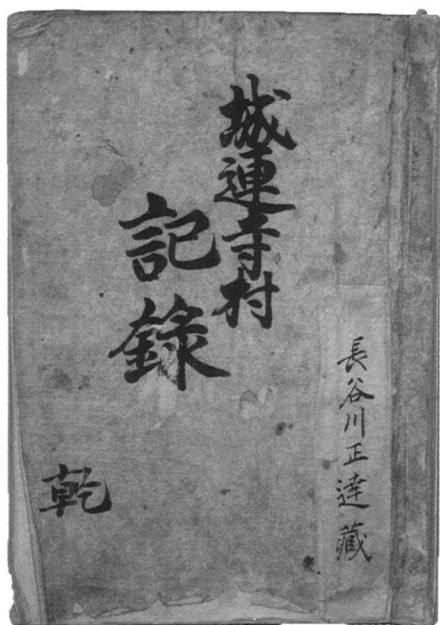
つけかえに反対したのは、新しい大和川ができるところの近くに住んでいる人たちでした。反対した理由はたくさんありますが、たとえば、①新しい川によって、自分たちの村の土地がうばわれる。②つけかえ前からあった川の水が大和川にうまく流れこむことができずに、川の南側では洪水がおこりやすくなる。③それまであった川が、新しい川より北側に流れなくなるので田畑に必要な水がなくなってしまう。④新しい川の堤防がつぶれると大きな被害になる。⑤新しい川によって道が通れなくなってしまう。などが反対する理由でした。

そして、つけかえ後には、これら反対していた理由の多くが、そのとおりになってしまいました。新しい大和川によって多くの田畑がなくなり、村が川の北と南に分かれてしまったところもたくさんあります。新しい大和川の南側では洪水がなんどもおこり、北側では田畑の水不足にこまることになりました。このほかにも、いろいろとこまったことがおこりました。



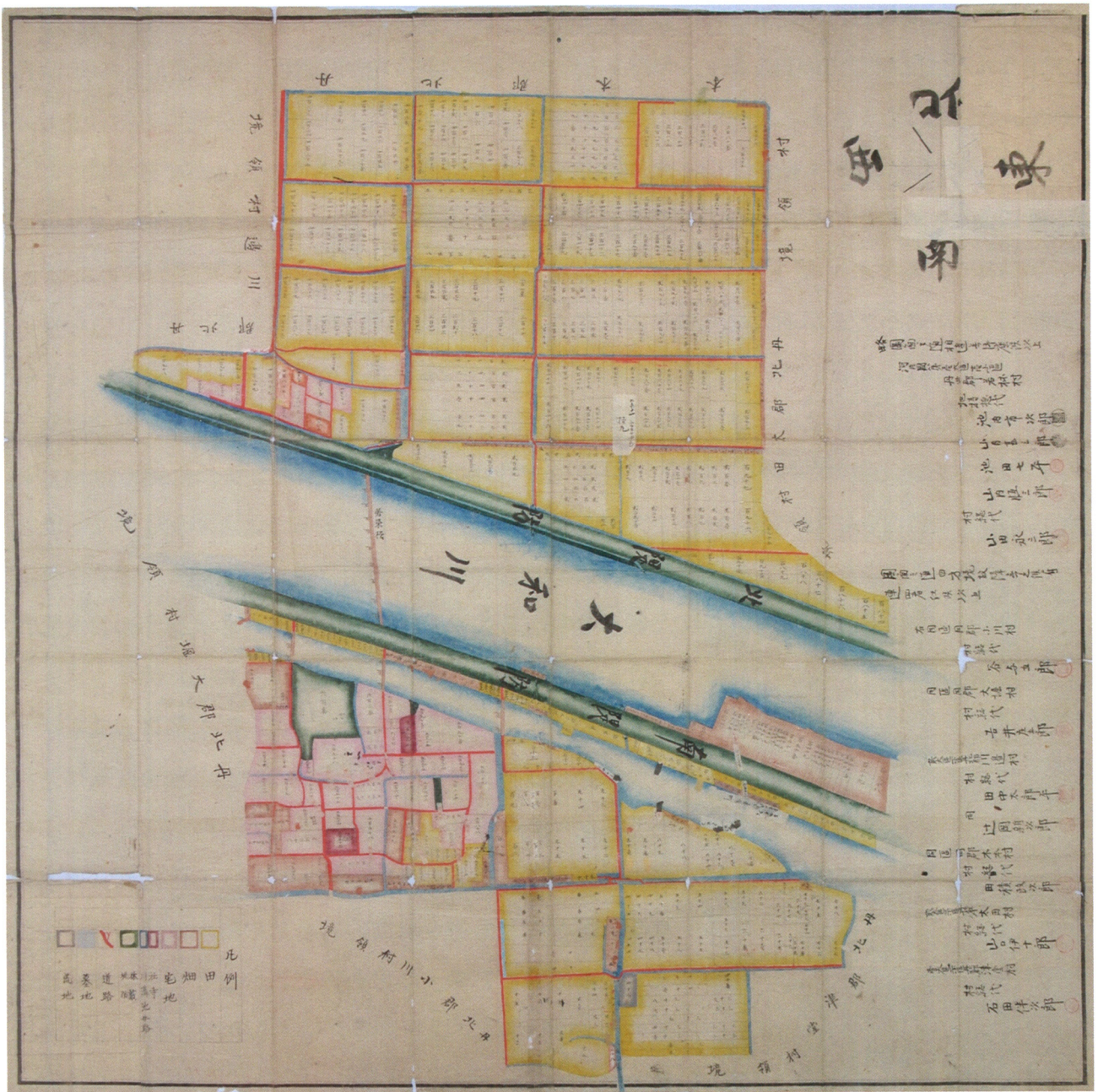
「新大和川堀割由来書上帳」(長谷川正禮氏所蔵)

城連寺村(今の松原市にあった村)の人たちが、大和川つけかえ前後のようすを、寛政8年(1796)にまとめたもの。ここには、万治2年(1659)ごろからつけかえを求め運動が始まったこと、その運動の中心となったのが芝村の三郎左(右)衛門と吉田村の次(治)郎兵衛だったこと、新しい川の近くの村の人たちが、反対するために江戸まで行ったことなども書かれている。そのほかに、つけかえ工事までのできごとや、つけかえ工事のようす、工事中に全部で77,409両あまりかかると考えられていたことなども書かれている。



「城連寺村記録 乾」(長谷川正禮氏所蔵)

城連寺村のできごとをまとめたもの。大和川のつけかえによって、生活がどんなに苦しくなったか、よくわかる。寛文11年(1671)からはじまり、延宝4年(1676)のつけかえ反対の願いはすべて記録されている。つけかえ工事中には麦の刈り取りまで待つてほしいという願いが聞いてもらえず、麦の刈り取りができないままで工事が進められたこと、工事のあと、なんども田が水につき、米がほとんど取れないこと、村ごとほかの土地へうつらせてほしいという願いなどが書かれている。



わかばやしむらえず
「若林村絵図」 (松原市所蔵)

明治 11 年 (1878) の若林村の地図。村のまんなかを新大和川が流れていることがよくわかる。ほとんどの人が川より南側に住んでいたが、つけかえ後に北側の田畑をもつ人たちが北側にも住むようになった。つけかえから 250 年以上も川の両側に分かれたまま一つの村で、昭和 30 年 (1955) には松原市となったが、川より北側は昭和 39 年 (1964) に八尾市となった。

若林村のほかにも、たくさんの村が新大和川の北と南に分かれてしまった。城連寺村では村の 3 分の 2 が大和川となり、その後の洪水などが原因で、家の数も人口もほぼ半分に減ってしまった。大和川のつけかえが、多くの人を苦しめることになったことが、残された文や地図からわかる。つけかえは、いいことばかりではなかったのだ。

※今回の展示に際して、長谷川正禮氏、松永白洲記念館、松原市、(一財)松原市文化情報振興事業団のご協力をいただきました。写真は(一財)松原市文化情報振興事業団の提供によるものです。